

日本カヌー連盟
カヌーポロ競技規則（JCFルール）

2019年4月改正（ICFの2019ルール改正に伴い改定）

○カヌーポロ競技規則

新	旧
<p>2章 大会組織</p> <p>14. リーグ・ポイントと順位</p> <p>14.5 2チーム以上が同数のポイントを獲得した場合、以下の手順で順位を決定する。</p> <p>(a) 得失点差（得失点：得点－失点）</p> <p>(b) 総得点数</p> <p>(c) グループ内での直接対決の結果</p> <p><u>(d) フェア・プレイ（与えられたカードの数がより少ないチーム。レッドカード 10 ポイント、イエローカード 5 ポイント、グリーンカードは除く）</u></p> <p><u>(e) プレイ・オフ（可能な場合）</u></p> <p>18. 競技会場</p> <p>18.8 コーチ・エリア。ゴール・ライン後方1mから始まりゴール・ラインの後方を横断して（横断する陸路があれば）、ゴール反対側の交代エリアに達するまでのエリアとする。このエリアは明確に印付けられる。コーチとチームスタッフは<u>ボールが自分のチームのディフェンスエリアにある時は、ゴール裏を通行することができない。</u></p> <p>24. 役員</p> <p>24.1 大会は以下の役員の監督下で保持されるものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技委員長 ・大会運営長 ・技術長 <u>・審判部長</u> ・検定長 ・記録長 ・計時員 ・得点員 ・審判 <u>・線審またはカメラ</u> ・検定員 <p>27. 役員任命</p> <p>27.1 は、以下のグループは以下の役員を指名する責任を負う。</p>	<p>2章 大会組織</p> <p>14. リーグ・ポイントと順位</p> <p>14.5 2チーム以上が同数のポイントを獲得した場合、以下の手順で順位を決定する。</p> <p>(a) 得失点差（得失点：得点－失点）</p> <p>(b) 総得点数</p> <p>(c) グループ内での直接対決の結果</p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(d) プレイ・オフ（可能な場合）</u></p> <p>18. 競技会場</p> <p>18.8 コーチ・エリア。ゴール・ライン後方 1m から始まりゴール・ラインの後方を横断して（横断する陸路があれば）、ゴール反対側の交代エリアに達するまでのエリアとする。このエリアは明確に印付けられる。コーチとチームスタッフは<u>ゴール裏を通行することができるが、その場に留まってはならない。</u></p> <p>24. 役員</p> <p>24.1 大会は以下の役員の監督下で保持されるものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技委員長 ・大会運営長 ・技術長 <u>・審判長</u> ・検定長 ・記録長 ・計時員 ・得点員 ・審判 <u>・線審</u> ・検定員 <p>27. 役員任命</p> <p>27.1 は、以下のグループは以下の役員を指名する責任を負う。</p>

役員	グループ	役員	グループ
競技委員長 大会運営長 技術長 <u>審判部長</u> 検定長 記録長	組織委員会	競技委員長 大会運営長 技術長 <u>審判長</u> 検定長 記録長	組織委員会
計時員 得点員	記録長	計時員 得点員	記録長
審判 線審	<u>審判部長</u>	審判 線審	<u>審判長</u>
検定員	検定長	検定員	検定長
<p>28. 組織委員会の責務</p> <p>28.3.2 適切な大きさのボールを審判と<u>線審(カメラに置き換えることができる)</u>に対して供給するボランティアを準備し、それを確実にを行う。これらのボランティアはユニフォームを着用する。独特色のユニフォームは自分たちの役割を示し、審判と<u>線審(カメラに置き換えることができる)</u>のユニフォームとは異なる。</p> <p>30. 役員の責務</p> <p>30.4 <u>審判部長</u>。<u>審判部長</u>は以下の責務を負う。</p> <p>30.9 審判。</p> <p>30.9.2.2 自身の装備を提供する。審判の服装は<u>適切な黒か白のシャツと半ズボンとする。両審判は同色のシャツとする。</u>また、審判は運動靴か適切な代替手段を着用する。</p> <p>30.9.2.3 退場選手をもたらす全ての事態の結果を、報告書(各審判から1つ)にて<u>審判部長</u>に提供する。報告書はさらなる懲戒処分を含むべきである。</p> <p>30.9.2.5 <u>審判部長</u>からの指示に従う。</p> <p>30.10 線審</p> <p>30.10.1 各試合のため2人の<u>線審(カメラに置き換えることができる)</u>が1つのゴール・ラインを担当し審判を補助するため任命される。線審は以下の責務を負う。</p> <p>3章 ゲーム規則</p> <p>32. 競技エリアの境界線とマーカー</p> <p>32.3 ゴール・ラインやハーフ・ラインを示すマーカー、及び、ゴール・ラインからそれぞれ<u>6mおよび4m</u>離れた地点を示すマーカーは、サイド・ラインに沿った場所に、すべての審判及び競技者に認識されるように表示する。</p> <p>34. ボール</p> <p>34.3 男子、U-21 男子、マスターズ男子において、ボールの周囲は 68cm～71cm、<u>ボールの空気圧は製造業者が勧める圧力とする。</u></p> <p>34.4 女子、U-21 女子、マスターズ女子において、ボールの周囲は 65cm～67cm、<u>ボールの空気圧は製造業者が勧める圧力とする。</u></p>	<p>28. 組織委員会の責務</p> <p>28.3.2 適切な大きさのボールを審判と<u>線審</u>に対して供給するボランティアを準備し、それを確実にを行う。これらのボランティアはユニフォームを着用する。独特色のユニフォームは自分たちの役割を示し、審判と<u>線審</u>のユニフォームとは異なる。</p> <p>30. 役員の責務</p> <p>30.4 <u>審判長</u>。<u>審判長</u>は以下の責務を負う。</p> <p>30.9 審判。</p> <p>30.9.2.2 自身の装備を提供する。審判の服装は<u>適切な黒いシャツと半ズボンかズボンとする。</u>また、審判は運動靴か適切な代替手段を着用する。</p> <p>30.9.2.3 退場選手をもたらす全ての事態の結果を、報告書(各審判から1つ)にて<u>審判長</u>に提供する。報告書はさらなる懲戒処分を含むべきである。</p> <p>30.9.2.5 <u>審判長</u>からの指示に従う。</p> <p>30.10 線審</p> <p>30.10.1 各試合のため2人の<u>線審</u>が1つのゴール・ラインを担当し審判を補助するため任命される。線審は以下の責務を負う。</p> <p>3章 ゲーム規則</p> <p>32. 競技エリアの境界線とマーカー</p> <p>32.3 ゴール・ラインやハーフ・ラインを示すマーカー、及び、ゴール・ラインからそれぞれ<u>6m</u>離れた地点を示すマーカーは、サイド・ラインに沿った場所に、すべての審判及び競技者に認識されるように表示する。</p> <p>34. ボール</p> <p>34.3 男子、U-21 男子、マスターズ男子において、ボールの周囲は 68cm～71cm、<u>圧力は 90～97 kPa(キロ・パスカル)とする。</u></p> <p>34.4 女子、U-21 女子、マスターズ女子において、ボールの周囲は 65cm～67cm、<u>圧力は 83～90 kPa(キロ・パスカル)とする。</u></p>		

35. 競技役員

35.1 競技役員は、2名の審判、2名の線審またはカメラ、1名の検定員、2名の計時員、1名の記録員からなる。

36. 審判

36.6 両審判が決定に同意することができない場合、主審が最終決定を行う。

得点、反則、イエローカードまたはレッドカードに関して、両審判が異なるシグナルを示した場合は、タイム・アウトを取って協議することとする。それでも両審判で合意が得られない場合は、主審が最終決定を行う。

37. 線審

37.4 線審に変えて、記録台と繋がる固定カメラを使用することができる。この場合、違反が発生した際は記録員が赤い旗を掲げて審判に知らせることとする。(可能ならば、記録員はヘッドマイクにより審判と連絡が取れることが望ましい)

46. 個人の装備

46.3 各チームの選手は、上腕の半ばまで覆われた袖のついた同色のシャツを着用しなければならない。選手は滑りやすい物質を腕や首に付けてはいけない。

46.5 選手は、本来の表面の摩擦係数を変化させるような滑りやすい物質を装備につけてはいけない。

51. タイム・アウト

51.5 タイム・アウトは、得点後に適用することができる。ゴール・ペナルティ・ショットが認められた際は適用されなければならない。審判の判断に何か支障が生じた場合もタイム・アウトを適用することができる。

51.7 ライブ配信の広告が使用される会場で競技会が行われる場合、コーチやチームキャプテンは、6mエリア外において自分のチームがポゼッション中である際に、1分間のタイム・アウトを1回だけ競技中に要求しなければならない。このタイム・アウトは、前後半それぞれの終了3分前までに適用されなければならない。タイム・アウトが適用され次第、チームミーティングが行われる間、承認された広告がライブ配信される。タイム・アウト終了後に、選手は、タイム・アウト適用時とほぼ同じポジションから再開するために準備しなければならない。フリー・ショットではなくフリー・スローで試合再開される。

後半が開始して7分経過後もタイム・アウトをチーム側から要求されない場合は、審判がタイム・アウトを適用する。

ライブ配信の広告は、競技会前に品質が検査され、公認を受けた内容のもののみ使用することが

35. 競技役員

35.1 競技役員は、2名の審判、2名の線審、1名の検定員、2名の計時員、1名の記録員からなる。

36. 審判

36.6 両審判が決定に同意することができない場合、主審が最終決定を行う。

37. 線審

(新設)

46. 個人の装備

46.3 上腕の半ばまで覆われた袖のついたシャツを着用しなければならない。選手はグリース、油、または、類似の物質を腕や首に付けてはいけない。

46.5 選手はいかなる油っぽい物質も装備につけてはいけない。

51. タイム・アウト

51.5 ゴールが得点された後や、ゴール・ペナルティ・ショットが適用されたとき、または審判の判断に何か支障が生じた場合はタイム・アウトが適用されなければならない。

(新設)

できる。

52. 競技の開始

52.6 各チームの選手1人だけがボール獲得を試みることができる。そのうち1人が明らかにボールポゼッションを得るまでの間は、その他の選手は当該選手の体から半径3m以内に入ってはならない。反則にはフリー・ショットが与えられる。シグナル1と15を適用。

55. 得点後のリスタート

55.1 得点が認められた後、得点したチームはできるだけ早く自陣側に戻らなければならない。いかなる遅延行為も作為的とみなされ、反スポーツ的な行為として違反した選手に最低でもグリーン・カードが与えられる。シグナル15、17および18を適用。

55.2 主審は、攻撃側のチームの準備が整っており、かつ、最低3人の守備側の選手が自陣側に戻っていれば、競技を再開することができる。守備側のチームの選手は、センター・ラインを越えて後方の守備陣側に身体がなければ競技に参加できない。反則した選手にはイエロー・カードが与えられる。シグナル1、15および17を適用。

55.3 リスタート・スローを行う選手は、センター・ライン上に身体の一部が位置していなければならない。攻撃側のチームの他の選手は、競技再開の笛が吹かれるまではセンター・ラインを越えてはならない。リスタート・スローを行う選手は、静止していなければならない、ボールを持ち上げてスローの準備ができていることを示す。主審が競技再開の笛を吹く。

57. 競技エリアへの入場、再入場、交代と装備の交換

57.4 脱艇した選手が自陣ゴール・ライン以外の場所から競技エリアを退場した場合は、競技が次に停止した時のみ選手交替が認められる。脱艇した選手の全ての装備（カヤック、パドルなど）は、交替員が入場する前に競技エリアから取り除かねばならない。

58. 不当な交替と競技エリアへの入場

58.1 1チームに認められた人数以上の選手が競技エリア内に入った場合は、イエロー・カードが与えられなければならない。どの選手が競技エリアから退場すべきか明確ではない場合、チームのキャプテンが退場する選手を指名する。罰則を伴う違反。シグナル7および14を適用。

60. 違反となるポゼッション

60.5 選手はスプレー・デッキの上にボールを乗せたまま、(一部削除)パドルや手でカヤックを操作

52. 競技の開始

52.6 各チーム1人の選手だけがボールを獲得を試みてよい。ボールの獲得を試みる競技者についていく他の選手は、ボールの獲得を試みる競技者の体から半径3m以内に入ってはいけない。反則にはフリー・スローが与えられる。シグナル1と14を適用。

55. 得点後のリスタート

55.1 ゴールが得点された後、得点したチームは10～15秒以内に自陣に戻らなければならない。いかなる遅延行為も作為的とみなされ、反スポーツ的な行為としてチームに警告が与えられる。シグナル15、17および18を適用。

55.2 攻撃側の選手の準備が整っていれば、たとえ相手側のチームの2名までの選手が自陣に戻っていても審判は競技を再開してもよい。相手側のチームの選手は胴体が完全に自陣に戻らなければ競技に参加できない。反則した選手にはイエロー・カードが与えられる。シグナル1、15および17を適用。

55.3 リスタート・スローを行う選手は、競技エリアのセンター・ライン上のどこかに体の一部が位置していなければならない。攻撃チームのほかの選手は、競技再開の笛が吹かれるまでセンター・ラインを越えてはならない。リスタート・スローを行う選手はスローの準備できていることを合図するためにボールを持ち上げる。審判は競技を再開するために笛を吹く。

57. 競技エリアへの入場、再入場、交代と装備の交換

57.4 競技エリア自陣ゴール・ラインから退場しなかった脱艇選手は、競技の次の競技停止時まで交替が認められない。脱艇した選手の全ての装備（カヤック、パドルなど）は、交替員が入場する前に競技エリアから取り除かねばならない。

58. 不当な交替と競技エリアへの入場

58.1 いかなるときも1チームに認められた人数以上の選手（達）が競技エリア内に入った場合は、イエロー・カード（一枚かそれ以上）が与えられる。選手（達）の誰が競技エリアから退出すべきか明確ではない場合、チームのキャプテンがその選手（達）を指名する。罰則を伴う違反。シグナル7および14を適用。

60. 違反となるポゼッション

60.5 選手はスプレー・デッキの上にボールを乗せたまま、またはボールを脇に抱え込んだままパドル

してはいけない。

60.6 選手は、両手でパドルを持ちながらボールを保持して漕ぐ、または、カヤックを操作してはならない。

61. 違反となるハンド・タックル

61.4 スローまたはパスを行う選手のボールを扱う腕に対して、後ろに引っばる、または、たたくハンド・タックル。

63. 違反となるジョスル

63.1 静止している、または、ポジションを維持しようとしている選手に対して、カヤックで継続的に接触することによりその選手の体を 2m 以上動かすこと。

66. スポーツ精神に反する行為

66.8 上記以外の、選手、審判、オフィシャル・スタッフに対するスポーツ精神に反する行為、または、負傷を装い審判の思慮に訴えかける等、競技理念に弊害をもたらすと判断される行為。

69. アドバンテージ

69.1 反則が起きた際どちらの審判も笛を吹いていなければ、審判はアドバンテージを取ることができる。審判は反則されたチームがプレイ続行によって、より利益を得られると判断した場合にアドバンテージを取る。アドバンテージを取る際、審判は「プレイ・オン」と言いながら、最大で5秒間ハンドシグナルを示し、違反となるプレーを示さなければならない。シグナル 13 および 14 を適用。

69.3 アドバンテージを取る際、次のパスまたはシュートがアドバンテージの原因となる反則に影響を受けた場合、あるいは、反則を受けたチームに明確な優位性が生じなかった場合は、審判によってシグナルと共に元の反則に対する笛が吹かれなければならない。審判は反則からの開始位置を指し示す。

70. 制裁

70.2 フリー・ショット。シグナル 15 を適用。フリー・ショットは直接ゴールに向けてショットを打つことができる。

70.3 フリー・スロー。シグナル 14 を適用。フリー・スローは直接ゴールに向けてショットを打つことができない。

70.3.2 フリー・スローは直接ゴールに向けてショットを打つことができない。反則した場合は制裁が与えられ、相手にフリー・スローが与えられる。シグナル 11 と 14 を適用。サイド・ライン・スロー、ゴール・ライン・スロー、コーナー・スロー、リスタート・スローはフリー・スローであり、直接シ

や手でカヤックを操作してはいけない。

(新設)

61. 違反となるハンド・タックル

(新設)

63. 違反となるジョスル

63.1 静止している、または、ポジションを維持しようとしている選手に対して、カヤックで継続的に接触することによりその選手の体を 0.5m 以上動かすこと。

66. スポーツ精神に反する行為

66.8 選手、審判、オフィシャル・スタッフに対するその他のスポーツ精神に反する行為、および審判がゲームに弊害をもたらすと判断した行為。

69. アドバンテージ

69.1 反則が起きた際どちらの審判も笛を吹いていなければ、審判はアドバンテージを取ることができる。審判は反則されたチームがプレイ続行によって、より利益を得られると判断した場合にアドバンテージを取る。アドバンテージを取る際、審判はプレイ・オンのシグナルによって違反となるプレイを認識する。シグナル 13 および 14 を適用。

69.3 アドバンテージにより次のパス、シュートを行ったが、明確な優位性が生じなかった場合、審判によってシグナルと共に元の反則に対する笛が吹かれる。審判は反則からの開始位置を指し示す。

70. 制裁

70.2 フリー・ショット。シグナル 15 を適用。フリー・ショットは直接ゴールしても良い。

70.3 フリー・スロー。シグナル 14 を適用。フリー・スローは直接ゴールできない。

70.3.2 フリー・スローは直接ゴールできない。反則した場合は制裁が与えられ、相手にフリー・スローが与えられる。シグナル 11 と 14 を適用。サイド・ライン・スロー、ゴール・ライン・スロー、コーナー・スロー、リスタート・スローはフリー・スローであり、直接ゴールできない。

ットできない。

70.4.2 監督やチームスタッフがグリーン・カードが与えられた後にコーチ・エリアを離れた場合、またはグリーン・カードが出されたにもかかわらず違反者の態度および行動が修正されない場合は、監督、およびチームスタッフにレッド・カードが与えられる。レッド・カードを与えられた監督、またはチームスタッフは直ちに競技エリアを退場し、代理に人が入ることは許されない。違反者が完全に退場するまで試合は再開できない上に、本人はそれ以上試合に参加することを禁じられ、他の選手や監督と接触することはできない。違反者が退場命令に従わない場合審判は試合を中止し、問題を競技委員会に委ねる。

70.4.5 大会期間中レッド・カードを与えられた選手は、(一部削除)自動的に1試合出場停止となり、大会中の次の試合に参加することができない。

大会期間中レッド・カードを与えられた監督、またはチームスタッフは、自動的に1試合出場停止となり、大会中の次の試合に参加することができない。この試合中は競技エリアおよび観覧席外にいない必要ならず、他の選手や監督と接触することはできない。

70.5 イエロー・カード・パワー・プレイ：シグナル17とイエロー・カードを適用。イエロー・カードを与えられた選手はコートから退場となり、最大で2分間コートに戻ることができない。パワー・プレイの計時は、タイム・アウトやハーフ・タイム中は中断される。

パワー・プレイ中に相手チームが得点した場合は、イエロー・カードが解除され、退場した選手または他の選手がコートに戻ることができ、センター・ラインから通常の競技が再開される。

イエロー・カード・パワー・プレイはゴール・ペナルティ・ショットが認められた際は適用されない。ゴール・ペナルティ・ショット適用によりイエロー・カードを与えられた選手は、2分間退場とする。

同じチームの選手2人がイエロー・カードを与えられた場合、相手チームが得点した際に1枚目のイエロー・カードのみが解除される。残る1人のパワー・プレイは、相手チームが再び得点しない限り、退場してから2分が経過するまで継続されなければならない。

70.5.1 グリーン・カードを与えられた選手が同じ試合中に意図的または危険な反則を犯した場合には、レッドカードが認められる場合を除き、イエロー・カードが与えられる。

70.5.2 ゴール・ペナルティ・ショットの原因となる反則を犯した選手に対してイエロー・カードが与えられる。この場合は、イエローカード・パワー・プレイ適用外となるため、ゴール・ペナルティ・ショットの結果、得点が決まった場合であってもイエロー・カードは解除されない。

70.4.2 監督やチームスタッフがグリーン・カードが与えられた後にコーチ・エリアを離れた場合、またはグリーン・カードが出されたにもかかわらず違反者の態度および行動が修正されない場合は、監督、およびチームスタッフにレッド・カードが与えられる。レッド・カードを与えられた監督、またはチームスタッフは直ちに競技エリアを退場し、代理に人が入ることは許されない。違反者が完全に退場するまで試合は再開できない上に、本人はそれ以上試合に参加することを禁じられる。違反者が退場命令に従わない場合審判は試合を中止し、問題を競技委員会に委ねる。

70.4.5 大会期間中レッド・カードを受けた選手、監督、またはチームスタッフは、自動的に1試合出場停止となり、大会中の次の試合に参加することができない。

70.5 イエロー・カード：選手は2分間の退場となり、交代は認められない。退場時間の計時は、タイム・アウトやハーフ・タイム中は中断される。シグナル17とイエロー・カードを適用。

70.5.1 どのような理由でも3枚目のグリーン・カード(チーム・グリーンを含む)を受けた選手にはイエロー・カードが与えられる。

70.5.2 ゴール・ペナルティ・ショットを与えるに足る反則だと審判が判断した場合を除き、イエロー・カードは意図的、または、危険なファールで決定的なゴール場面を妨げた選手に与えられる。

70.5.4 審判がアドバンテージを取っている間に意図的または危険な反則が繰り返された場合、レッドカードが認められる場合を除き、イエロー・カードが与えられる。

70.5.8 大会期間中に合計で3枚のイエロー・カードを与えられた選手は、自動的に大会中の次の試合は出場停止となる。

70.6.4 選手1人につき1試合で与えられるグリーン・カードの枚数は最高1枚とする。グリーン・カードを与えられた選手が、更に意図的または危険な反則を犯した時、もしくは意図的にスポーツ精神に反する行為を行った時のいずれかに該当する場合は、レッドカードが認められる場合を除き、イエロー・カードが与えられる。

70.6.5 試合時間が残り1分となった場合、グリーン・カードは適用されず、意図的または危険な反則を犯した選手には、レッドカードが認められる場合を除き、自動的にイエロー・カードが与えられる。

70.6.6 コーナー・スロー、サイド・ライン・スロー、ゴール・ライン・スローを試みる選手に対してカヤックを接触させる行為には、グリーン・カードが適用される。

70.7 合計で4枚までのグリーン・カードがチームに与えられる。4枚目のグリーン・カードは、反則を犯した個人に対してイエロー・カードとして扱われる。

4枚目のグリーン・カードが監督またはチームスタッフに与えられた場合は、当該チームのキャプテンにイエロー・カードが適用される。

1チームあたりのグリーン・カードの合計数はリセットされず、更に反則を犯した場合には、継続してイエロー・カードが適用される。

(削除)

(削除)

(削除)

72. ゴール・ペナルティ・ショットの行い方

シグナル16およびイエロー・カード適用。ゴール・ペナルティ・ショットは、ゴール・キーパー1名が守備するゴールに対して、攻撃側の選手1名ショットすることにより行われる。その他の選手は、ショットが試みられるまでは競技に参加することができない。通常の競技は、ショットが試みられた後に再開される。

70.5.4 繰り返し行われる意図的、または危険な反則に対して、もしくはグリーン・カードやチーム・グリーンにより警告を与えられているにも関わらず、同じ反則が繰り返された場合はイエロー・カードが与えられる。

(新設)

(新設)

(新設)

(新設)

70.7 チームへの警告。シグナル17とグリーン・カードを適用。審判がチームの全選手にグリーン・カードを与えるときにチームへの警告(チーム・グリーン)が発生する。

70.7.1 チームへの警告は、同一チームの一人以上の選手によって同じ意図的または危険な反則が繰り返されたと、いずれかの審判が考えた場合に与えられる。

70.7.2 審判、競技役員、相手選手への不必要で不適当な発言、またはスポーツマンらしくない行為が同一チームの一人以上の選手によって繰り返された場合、チーム・グリーンが与えられる。

70.7.3 チームへの警告が与えられた後、チームのいずれかの選手が同じ反則を行った場合は、その違反に対してイエロー・カードが与えられる。

72. ゴール・ペナルティ・ショットの行い方

72.1 ゴール・ペナルティ・ショットを行う選手は4mライン上に体を静止させる。ゴール・キーパーは、ゴールフレーム下のゴール中央から1m以内に体を位置させることとする。ゴール・キーパーはショットが放たれるまでは、この位置に静止し続けなければならない。違反した場合は、再度、ゴール・ペナルティ・ショットが行われる。

72.2 他の全ての選手および装備は6mエリア外に位置していなければならない。違反した場合は、再度、ゴール・ペナルティ・ショットが行われ、違反した選手に対して最低でもグリーン・カードが与えられる。

72.3 審判の笛によりショットが行われる。5秒ルール適用。ゴール・ペナルティ・ショットを行う選手は、審判の笛が鳴った際、静止してショットを行わなければならない。ボールを頭の上に掲げる必要はない。

72.4 他の全ての選手は、ショットを行う選手の手から一度ボールが離れ次第、通常の競技を再開できる。

72.5 ショットを行った選手は、キーパーにブロックされる、もしくは、ゴール・フレームに当たってコート内にリバウンドした場合に、ボールに対して再度プレイすることができる。

72.6 ゴール・ペナルティ・ショットの原因となる反則を犯した選手に対しては、イエローカードが与えられなければならない。

72.7 ゴール・ペナルティ・ショットを行うのは、負傷して交代する必要がある場合を除き、反則行為を受けた選手が行うこととする。ショットを行う選手を交代する場合、交代選手は適切な選手によることとする。反則が発生した際にゴールを守備する選手がいなかった場合は、ゴール・キーパーがいなかった状態でゴール・ペナルティ・ショットが適用されなければならない。

73. 競技の終了

73.2 ゴール・ペナルティ・ショットが競技終了のシグナルより前に与えられた場合、ゴール・ペナルティ・ショットは競技終了したとみなされる前に行われなければならない。得点が認められた時、キーパーによりショットがブロックされた時、ショットがゴール・フレームに当たってリバウンドした時、ショットが外れてコート外に出た時、以上のいずれかに該当する場合は、審判は競技が終了したとみなし、笛を吹く。

72.1 ゴール・ペナルティ・ショットを行う選手は6mライン上に体を静止させる。

72.2 他の全選手は競技が再開するまで競技エリアの反対ハーフ内にいなければならない。

72.3 審判の笛によりショットが行われる。5秒ルール適用。

72.4 笛によって競技再開となる。ボールを頭の上に掲げる必要はない。

72.5 ショットを行った選手はボールが他の選手に触る、他の選手の装備に触る、ゴール・フレームに触るまで、ボールに対して再度プレイしてはいけない。

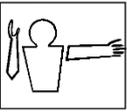
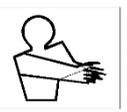
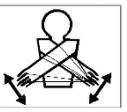
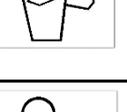
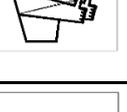
(新規)

(新規)

73. 競技の終了

73.2 もしゴール・ペナルティ・ショットが競技終了のシグナル前に与えられていた場合は、ゴール・ペナルティ・ショットは競技終了したとみなされる前に行われなければならない。その場合、投げられたボールが水面に接触する、または、ゴール・フレームにあたり競技エリア内に戻った場合、その時点で即座にボールは効力を失う。

新	旧
<p>88.2 ショット・クロックは時計員により操作される。ショット・クロックは<u>試合のメイン時計</u>に直接同期しており、得点后、審判のタイム・アウト時、<u>ボールがアウトになった時に、メイン時計に合わせて</u>ショット・クロックも停止する。ショット・クロックは審判が再開のホイッスルを鳴らした時、またはスローを行う選手がボールを持ち上げる時に再開する。<u>ショット・クロックは、試合のメイン時計とは独立して停止できなければならない。前後半のそれぞれにおいて試合の残り時間が1分以内である場合は、ショット・クロックは、試合のメイン時計の残り時間と同じ表示をしなければならない。</u></p> <p>88.3 ショット・クロックは試合会場の選手観客から、各ゴールの<u>上部、下部または側面</u>、各コーナー、主審側のいずれかに、直接はつきりと視覚的に確認できるもので設置される。</p> <p>88.4 ショット・クロックは固有の音のなる装置で、選手、役員などゲームに関わる全ての人にはつきりと聞こえるものでなければならない。ショット・クロックの音は、メイン時計の音と異なるものを用いなければならない。ショット・クロックの音は、<u>ショット・クロック時間が終了したことを示すため、60秒が終了した際に鳴る。</u>審判はポゼッションの変更を確認するために笛を吹き、<u>相手チームにフリー・ショットが与えられる。</u></p> <p>88.10 ショット・クロックは、相手チームの反則で<u>フリー・ショットを得た場合、または、審判がアドバンテージを認めた場合にリセットされる。</u> (繰り返しファールをし、ショット・クロックの時間を使い切ろうとすることを防ぐ。そのようなチームにはカードが適用されるべき)</p>	<p>88.2 ショット・クロックは時計員により操作される。ショット・クロックは<u>試合の主な時計</u>に直接同期しており、得点后、審判のタイム・アウト時<u>など、主な時計が止まった</u>際にはショット・クロックも停止する。ショット・クロックは審判が再開のホイッスルを鳴らした時、またはスローを行う選手がボールを持ち上げる時に再開する。</p> <p>88.3 ショット・クロックは試合会場の選手観客から、<u>上空、各ゴールの横</u>、各コーナー、主審側のいずれかに、直接はつきりと視覚的に確認できるもので設置される。</p> <p>88.4 ショット・クロックは固有の音のなる装置で、選手、役員などゲームに関わる全ての人にはつきりと聞こえるものでなければならない。ショット・クロックの音は、主時計員の音と異なるものを用いなければならない。ショット・クロックの音は、<u>残り20秒で一度鳴り、ショット・クロック時間が終了したことを示すため、60秒が終了した際に3度なる。</u>審判はポゼッションの変更を確認するために笛を吹き、<u>シグナルを示す。</u></p> <p>88.10 ショット・クロックは、相手チームの反則で<u>フリー・ショットを得た場合にリセットされる。</u> (繰り返しファールをし、ショット・クロックの時間を使い切ろうとすることを防ぐ。そのようなチームにはカードが適用されるべき)</p>

	<p>1. スタート時の反則 前腕を上向きに曲げ、開いた掌を顔の高さに挙げ顔に向ける。</p>		<p>13. プレイ・オン、アドバンテージ 片腕の肘を曲げ、腰の高さで 3回体の前を前後に振る 最大で5秒間継続して円を描く。一方の腕は競技の方向を示す。</p>
	<p>2. ピリオド、試合の終了 腕を胸の前で交差する。掌を外に向ける。</p>		<p>14. フリー・スロー サイド・ラインに沿って腕を伸ばし、手を広げ、競技の方向を指す。</p>
	<p>3. 得点 腕の伸ばし掌を合わせる。コート中央を指す。</p>		<p>15. フリー・ショット 腕を伸ばし攻撃する方向のゴールを人差し指で指す。一方の手は違反となるシグナルを示す (9, 10, 11, 12)。</p>
	<p>4. ゴール不成功 腿の高さで腕を繰り返す交差する。掌は開く。</p>		<p>16. ゴール・ペナルティ・ショット 両腕を伸ばし両方の人差し指でゴールを指す。</p>
	<p>5. サイド・スロー、コーナー・スロー サイド・ラインを指す。一方の腕は競技の方向を示す。</p>		<p>17. カードの提示 グリーン・カード：警告 イエロー・カード：最大2分間の退場 レッド・カード：試合残り時間退場 頭上にカードを掲げる。一方の手は選手を指す。必要であれば選手の番号を指で示す。10以上の番号を示す場合、握り拳を使用する。</p>
	<p>6. ゴール・ライン・スロー 開いた手でゴールに沿って腕を伸ばす。一方の腕は競技の方向を示す。</p>		<p>18. スポーツ精神に反する行為 人差し指を左右に振る。</p>
	<p>7. タイム・アウト 手で頭上に「T」を形作る。</p>		<p>19. 違反となるホールディング、違法となるハンド・タックル 握った片手を宙に掲げ上下に振り、一方の腕は競技の方向を示す。</p>
	<p>8. 審判ボール 肩の高さで腕を前に伸ばし、手を握り親指を立てる。</p>		
	<p>9. オブストラクション 握った片手を宙に掲げ2秒間保持し、その後フリー・ショットが行われる場所を指す。一方の腕は競技の方向を示す。</p>		
	<p>10. 違反となるカヤック・タックル 握った手を腰につけ2秒か保持し、その後フリー・ショットが行われる場所を示す。一方の腕は競技の方向を示す。</p>		
	<p>11. 5秒、ボゼッション 頭の高さに手を挙げ、頭の横で手を前に向ける。指を広げ2秒間保持する。その後フリー・ショットが行われる場所を示す。一方の腕は競技の方向を示す。</p>		
	<p>12. 違反となるパドルの使用 競技の方向を示す腕の上腕を一方の手で繰り返す2秒間叩く。その後フリー・ショットが行われる場所を示す。</p>		

